

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492900079
法人名	有限会社ぱすてる
事業所名	どんぐり庵さんだ
訪問調査日	平成24年11月15日
評価確定日	平成25年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成21年3月1日	
		指定年月日	平成21年3月1日	
法人名	有限会社ぱすてる			
事業所名	どんぐり庵さんだ			
所在地	(〒243-0211)			
	神奈川県厚木市三田742-27			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		エット数	2エット	
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで暮らすことになってからもその人らしい生活を送ることができるようにこころがけている。近所の徒歩圏内にスーパーや衣料品店、レストランがあり、日々の買物や行事の際に必ず利用者様と一緒に外出するよう心がけ、積極的に活用している。日常における料理や洗濯、掃除等に関しては職員のみで決して行わず、利用者様個人の力に応じた内容で一緒に行かない、たとえ少しの時間でも関わりをもち、また役割を持って生活して頂けるよう努めている。また、入居者様が健康に暮らせるように、かかりつけ医や看護師に協力してもらい、日々の健康面のチェックや、何か変化があった時は即座に対応できるよう日々の情報交換や、入居者様の観察に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年11月15日	評価機関 評価決定日	平成25年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームどんぐり庵さんだは有限会社ぱすてるが、厚木市飯山と三田に「認知症患者が住み慣れた地域で家庭的な環境の下に安心して暮らし続ける事を専門知識を持って支援する」ことを目的に設立された、2グループホームの中の一つである。
●小田急線本厚木駅からバスで11分、最寄停留所「宿原入口」下車徒歩3分、スーパーや衣料品店、レストラン等がある利便性に加え、一筋入ると真新しい住宅が建ち並ぶ住宅街の一面に、前面に駐車場と草花や木が植えられた花壇、玄関入口とサイドに車椅子様のスロープが設けられた洒落た木造2階建てのホームである。●理念に「あなたの出来る事、分かる事を理解し食事・排泄など一般生活をお手伝いをし、あなたの今までを認め、これからを大切に、何かをしたい自由な気持ちを守ります」であり、方針は「敬意を持ち人権を尊重して機能訓練と介護を行い拘束はしない」として支援が行われている。●食事では下ごしらえや下膳等を手伝い、食材調達やご本人のリクエストも交えながら調理を行ない、入居者のペースに合わせて楽しく食事が行われており、利用者個人の力に応じた内容を活かし、職員と一緒にこなしている。誕生日にはケーキを作りお祝をしている。●地域の付き合いでは、町内会に加入し、諸行事に参加して交流を図っている。また、利用者の散歩時には挨拶を交わして日常的な交流が行われている。夏祭りには子供神輿などを見物して楽しく交流している。
●事業所として、支援条件を整えばホームを終の棲家として利用できるとし、重度化における看取り指針に基づき入居の際に説明をしている。主治医、看護師、家族を含めたその人の意思を尊重した話し合いの下に、最期の時間を大切にしたターミナルケアを行う事を全職員で共有している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲示している。また実践につなげる為職員同士でも協力しあっている。	理念に「あなたの出来る事や理解が出来る事を表し易い様に心地よい環境を整え、食事、排泄、睡眠などの生活支援をします。あなたの今までと、これからも大切にして「～をしたい」という自由な気持ちを守ります」と謳ってホーム内に掲げ、介護計画に基づいた、敬意を持った機能訓練と、拘束のない介護提供を全職員で理解・共有に努め、実践に結びつけている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏祭り、落語会等に参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、情報の共有を図らせて頂いている	町内会に加入して落語会などの諸行事へ参加している。また、利用者の散歩時には近隣の方々にこちらから挨拶をして日常的な地域との交流は行われている。更に、町内会回覧板を通じて色々な情報を頂き、時にはホームの情報として毎年恒例として行なう夏場のそうめん流しや、正月に向けての餅つきには、地域の方や子供達の参加を得て入居者と楽しく交流している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。地域の方々向けにこちらから発信できるような具体的な活動は今後行なっていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。	昨年、厚木市介護保健課担当、包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族、大家さん、ホーム管理者、計画作成担当者のメンバー構成で、ホームの活動状況と今後の行事予定等を報告し、実施したが今年度は準備不足もあり1回管理者は(2月)しか開催できていない。来年度は、構成員と共に年6回の開催を目標に、時期について検討している。地域と共に暮らす事の必要性を強く認識していて、メンバー構成の検討を含め再開を検討している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。	厚木市の介護事業者の会に入会し、連携を図っている。市の担当窓口とは人材の確保や研修会などで協力関係を持ち、その他、入居状況や事故等の報告と、時には事業所での不明点を相談して助言を求め、また、高齢者支援を行う現場の立場からの情報などの提供等も行って連携もっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、周知を図っている。	運営の方針に、「利用者または他の利用者の生命及び身体保護の為やむを得ない場合を除き身体拘束は行はない」と謳って、マニュアルも整備し、職員に拘束に当たる行為と実施した場合のデメリットを説明し、周知を図っている。帰宅・外出願望者にはユニット間を越えた協力と見守りで対応している。玄関の施錠は、防犯上の理由から家族の了解を得て施錠をしている。今後さらに拘束のデメリットについて深耕し、全職員で理解できるように取り組む。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、ミーティング等を利用して振り返る機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未だ活用した例はないが、制度について研修を行ない、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。	重要事項説明書10や運営規定12条、契約書11条10に、苦情の受付窓口とその対応を明記して、契約時に説明をしている。家族の来訪時に職員から気軽に声をかけをし、更には電話連絡などによりホームでの暮らしぶりを話す中から「意見、要望」等を聴いている。得た意見、提案、苦情は毎月のミーティングで確認の上、運営に反映させている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、普段から話を聴く機会を設けるよう努めている。	月1度の現場の職員が行うフロアミーティングで、職員間の気付きや意見を提案として出してもらい、運営に反映できるよう努めている。加えて管理者は、普段より職員と何事でも気軽に話し合える関係を築いて意見要望などを聴くように努めている。また、提案制度もあるが活用されていないので制度の見直しを含め、活用したいと考えている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、家族にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活、家事、外出をする時は職員が一方的に行なわないよう注意し、職員が知らないことを教えて頂いたり、本人が主体的に参加できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のことで家族と相談することはあるが連絡を取るだけでなかなか面会に来られない家族もいるので会いに来て頂けるようもっと働きかける必要がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	意思表示の出来る方は外出をしたり買物に行くレジの方と話をしている入居者もいる。友人が訪ねて来た時はゆっくり過ごせるよう配慮している。意思表示の出来ない方への支援についてはさらに取り組んでいきたい。	ホームでは手紙の発送や電話の取次ぎの支援に加え、知人の来所などは本人や家族の意向を確かめて支援を行っている。思い出の場所等への訪問には家族との協力で、本人の思いに添えるように努めている。今迄に家族とお墓参りに行かれた方や、故郷の大阪に出かけられた方なども居る。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士と一緒に料理をしたり衣類を畳んだり、ゲームをしたり、居室で談笑をしたり触れ合えるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居が決まった際には、サマリーの用意や、担当者からの問い合わせに応じている。入居後も本人に面会に伺ったり、家族から相談があれば支援するように心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者同士の会話や家族からの情報で希望を知るようにしている。表出困難の方に対しては、表情や仕草などから本人の意向をくみとるよう心がけている。	意思表示が出来る入居者には日頃の会話を通じて直接聴いて意向の把握を行っている。しかし、意思表示が難しい入居者には寄り添いで、表情や仕草からの汲み取りに加え、家族からの情報の生活暦で、その人の思いや意向を確認し、日々のレクや外出なども本人本位に、計画を立てて対応している。今までの思いを聞いて誕生日会などを利用して「七沢温泉」「江ノ島」などへの外出や外食が行なわれている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談によって、していた仕事や得意としていたことなどを本人・家族に伺い、入居後の生活へ役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々なことを一緒に行なうことで、できること・できそうなことを知るようになっている。コミュニケーションや検温により、心身の状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーがアセスメント・プラン作成し職員にも周知している。またご家族やご本人様に思いや希望を聞き計画にのせている。職員間でミーティングを月1回行ない困った事や疑問等は意見を出し合い、プランに反映させている。	介護計画を一人ひとりに適した内容とする為、月1回のミーティングで日常生活の記録に加え、職員夫々の観測結果に基づき意見を述べ合い、家族の意見や本人の思いも加え、計画作成担当者との話し合で、その人の持つ能力が発揮できる介護計画を立案している。また、モニタリングは日々評価判定を記録して実行している。今後、更にケアマネとの話し合いで密度を高めた検討を行う事を考えている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活の中で気になったこと等変化についての情報交換をしてケアに活かしている。個人記録を使ってその日の様子を毎日記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下や咀嚼が困難な方には、栄養士による嚥下指導を受け、日頃のケアに活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや、美容院等を利用できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する際は事前に家族に連絡し、状況を伝えた上で受診し、受診後も必ず結果等を報告している。早めに受診して欲しいなど家族の意向もお聞きし、対応している。また、他のかかりつけ医がいる場合は、関係が継続できるよう支援している。	本人や家族が希望の医療機関を決めている。受診に当たってはホームでの生活状況等の必要情報を提供し、家族を通じて受診結果等を共有している。協力医療機関、米澤外科内科(外科・内科・眼科)・内田歯科の定期訪問診療と休日・夜間などの緊急時対応に加え、米澤外科内科による入院対応など適切な医療支援が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の様子に変化があった時や疑問があればその都度訪問看護師に相談している。また受診の必要があればすぐに行けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は様子を見に行ったり病院関係者に話を聞いている。情報は職員間で共有出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師から説明を受けた上で、家族と話し合いを設けている。施設でできること、できないことを伝え支援に望むようにしている。	事業所は関係者での話し合い、合意が成れば看取り介護を行うとの方針を持ち「重度化における看取り指針」に基づき、入居の際に説明をしている。主治医、看護師、家族を含めたその人の意思を尊重した話し合いの下に、同意書を作成し、ホームを終の棲家として最期の時間を大切にしたいターミナルケアを行う事を、全職員で共有している。ホームでは未だ看取り介護の経験が無い。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で緊急時対応マニュアルを作成し研修を行なっている。また外部の研修にも順次参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間の避難訓練は行なっている。夜間の対応や地域との協力は運営推進会議の機会を利用して依頼している。	日中を想定した年2回の避難訓練は行なっているが、様々な場面を想定し「夜勤専門者など」を加えた全員参加の訓練が必要だと考えている。現在、災害時通報連絡網の整備に加え、防災担当が中心になり備蓄品の準備は行なっており、災害時の行動手順などマニュアルの整備も行なっている。設備としてスプリンクラーは設置されている。運営推進会議の再開と共に地域の方の協力を「協力頂く内容を決め」お願いしたいと考えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴時ドアの開け放しに注意し周囲に聞かれたくない話等は小声で聞いたり、居室で対応したりしている。また話し方や聞き方にも注意している。	契約書11条1に、入居者はプライバシーが保たれ意思、人格の尊重と尊厳が維持される事が明記されていて、全職員に入浴時・トイレ・会話時など諸所注意すべき事柄が徹底され、互いに注意し合い、実際の介護の場面に於いても、やさしく親しみと敬いのある話しかけを行ない、トイレ誘導でも他の人に気付かれることのない配慮で行われている事を、調査時に確認する事ができた。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをよくとるように働きかけている。細かいことではあるが、飲み物を2種類用意し選んでいただいたり、食事のメニューやチラシ等を見て購入する物を決めてもらったりしている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者の希望通りに行動出来るようにしている。散歩の要望があれば他の作業中でも優先している。職員同士で考え、相談しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には入居者に選んで頂き、更衣全介助の方にも2着用意し選んで頂けるよう努力している。身だしなみには、声掛けや気配りを常に心掛けている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片付けまで全て入居者と一緒に行うように心掛けている。入居者の希望を聞き「○○さんおすすめメニュー」もとりに入れている。	手伝の出来る人には調理下拵えや盛り付け、下膳、食器洗いなどを手伝ってもらっている。利用者と職員とで食材調達を行って調理し時にはリクエストなども受け、ご利用者の「お薦めメニュー」も作られている。職員と入居者が同じテーブルに付き、入居者に合わせたペースで楽しく談笑しながらの食事が行われている事を調査時の食事同席で確認出来た。誕生日は月にまとめる事無く、日毎に行なっており、ケーキを作り、何が食べたいかをお伺いしながら特別食で祝っている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人の摂取量に合わせて提供している。食事量が減り体重が落ちた利用者に対しては声掛けや、好きなものを提供し、食べてもらえるよう支援している。水分は1日を通してお茶やジュース又はプリンやゼリー等で摂取して貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には、声掛けを毎食後行ないして頂いている。介助を要する方には、毎食後職員が行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	外出される際に、事前にトイレに行く習慣のある方には声掛けを行なっている。オムツを使用されている方でも、できる限りトイレで排泄できるように、排泄のパターンを把握してお連れしている。	「排泄チェック表」でパターンを把握して、オムツ使用の方も含め、その人に合わせた時間を見計らったのトイレ誘導で自立排泄を促している。更に、オムツ使用でない方の失敗の場合でも、他の人に気付かれない下着交換など適切な支援で「オムツにならない」と使用量を減らす工夫が行われている。声掛けでトイレに誘っている事を調査時に確認できた。夜間においても睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけでの支援が行われている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、食物繊維の多い食材を食べてもらったり、水分を多く摂ってもらうよう心がけている。また、トイレにゆっくり入れる環境を整えている。便秘になった際は、看護師や医師に下剤の量を調整してもらい服薬してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔は決まっているものの利用者のタイミングで入浴は行なっている。入浴拒否される方への支援は努力が必要。	入浴には身体観察の大切な役割があるので入浴を促しているが、決して無理強をせず、本人の意向を確認しながら3日に1度のペースでバイタルチェックと共にタイミングを見計らって、支援を行なっている。嫌がる人には、再度の声かけやタイミングをずらす等で入浴を促すよう努力している。また、入浴剤の使用と季節には菖蒲湯や柚子湯などで志向を変えての支援で、楽しめる様に工夫もしている。1F L浴室にリフトが設置され重度の方への支援が行なえるようになっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良質な睡眠をとるために、本人の状態に合わせて活動的に過ごしてもらえよう支援している。買物や散歩に行った際は、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬はもちろんのこと、状態により追加薬が処方された時には、副作用に気をつけ、常に入居者のご様子を見守り、変化を他の職員と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何をしたら、楽しく過ごせるかを考え、色々提供し、気分転換や本人の好みに合った楽しい事を見つけ、実行している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、付き添い安全に外出できる様支援している。誕生日では、普段行けないような場所にお連れしているが、日頃から支援できるように取り組んでいきたい。	天気の良い日は、車椅子の方にも日光浴や外出が出来るよう支援を心掛け、定番コースの他、買い物に行ったりしている。また、車を利用して外出を計画して「近くの運動公園」「市役所」「管理者の自宅(赤ちゃん生まれたので見に行く)」等へ、外出が実施されている。今後は家族の協力も得た、もっと入居者本人の希望に沿った外出ができるよう計画して行くことが検討されている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何か足りない物、欲しい物があればおこづかいと一緒に買物をする。自分で支払って頂き、社会とのつながりを感じて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を家族等に出し本人からの希望があれば手紙や電話ができるよう、家族確認の上で支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾り付けをし季節感を採り入れたり、室温や照明も調節したりする等心地よく過ごせるよう努めている。	花壇に草花や小さな植木等が植わった入り口スロープを上り、玄関を入るとエレベーターと事務室があるホールで、居室の並ぶ廊下を奥に進むとソファやテレビが置かれた食堂兼リビングと台所がある。その先に各居室が並ぶ直線的なレイアウトである。ホーム内の掃除は行き届き、不快音や異臭も無く空調管理も施され、入居者の季節に合わせた作品等が飾られ、寛げる空間作りがされている。二階部も同レイアウトである。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央にテーブル、周囲にソファを配置しそれぞれ好みの場所で過ごして頂き、好みの方とも自由に隣り合って座って頂けるような空間にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人や家族が思い思いに居室に配置され、飾り等もされている。室温や湿度を管理し、居心地良く過ごせるような支援をしている。	入居者各人の部屋にはクローゼット・エアコンがあり、空調管理は職員によって行われている。各人夫々に使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、防災カーテンに加え、鏡、椅子、ベット、ぬいぐるみ、仏壇等も置かれ、家族写真や入居者の作品等が飾られ、一人ひとり、想いの設えで生活拠点が作られている。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事全般や、日常生活に必要な事を出来る限り本人の力でこなして頂ける様工夫している。			

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と聞かれ、すぐに答えられないが職員それぞれが入居者の希望や出来る事の理解をしていると思う。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏祭り、落語会等に参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、情報の共有を図らせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。地域の方々向けにこちらから発信できるような具体的な活動は今後行なっていきたい。。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が理解し気をつけているが、職員が対応できないタイミングで外出の希望がある時は「行かないで」と制止することもある。その時は、時間をずらして行くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については全員が注意を払っているが、スピーチロックなど稀に見受けられる。今後理解を深め、そのようなことがない環境作りをしたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等を利用して、勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、普段から話を聴く機会を設けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、家族にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助するだけでなく、毎日の生活や家事の中で知らないことを教わり、行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側で行なえない事、用意できない物がある時、何か変わった事がある時は、家族に相談している。疎遠な家族にもさらに積極的に働きかけていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、以前から利用していたお店や、自宅周辺までドライブや散歩をする等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は把握している。一緒に貼り絵を行ったり衣類を畳むなど、入居者同士が触れ合いながら作業できるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居が決まった際には、サマリーの用意や、担当者からの問い合わせに応じている。入居後も本人に面会に伺ったり、家族から相談があれば支援するように心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一日の暮らしの中で、何をしたらこの方は喜ぶか、何を希望としているのか考え、日々のレクや作業に取り入れるようにしているが、全入居者に対しては出来ていない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの場所や知人の方がいるかどうか、家族から情報を得る計画は立てたが実践できていない。編み物が好きだった方に編み物の本を持って来てもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のお好きなことやできること（ボール投げ、貼り絵など）を知り、職員が共に出来るようにしている。バイタルチェックを一日二回行い、心身の状態を把握するよう努めている。イライラしているようであれば、気分転換できるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングや毎日の申し送りで職員同士意見を出し合い情報を共有している。ミーティングにはケアマネも参加し、毎回一定時間をアセスメントなどに割いているが、時間的に不足気味。日頃の勤務時間内にもう少しケアマネと職員で話し合う時間が持てると良いと思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や変化は個人記録や日誌に記入し、情報を交換、共有できるよう努めているが、統一した対応はできていない時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望にて訪問マッサージを紹介し、現在もサービスを受けている。また家族が対応できない時の受診やメールでの連絡、家族と一緒に介護用品を探すなど臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	刺激のある楽しい生活を送って頂く為に、地域のお祭りやイベントに参加したり、買物や外食を通して近所の方々と関われるよう支援している。ただし、参加入居者に偏りがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する際は事前に家族に連絡し、状況を伝えた上で受診し、受診後も必ず結果等を報告している。早めに受診して欲しいなど家族の意向もお聞きし、対応している。また、他のかかりつけ医がいる場合は、関係が継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調など身体の変化が見られた時は、その都度看護師に相談し、適切な支援が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き様子を伺い、病院関係者と相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師から説明を受けた上で、家族と話し合いを設けている。施設でできること、できないことを伝え支援に望むようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時、救急時対応マニュアルを理解している。救命処置の研修に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、施設内の災害時マニュアルを再検討中。年に二度避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ介助の際のドアの開け放しに注意している。また、周囲に聞かれたくない話などの場合は居室で対応したり、更衣などの場合もプライバシーを確保出来る所で行うなど注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をされてきた時はきちんと聞くよう心掛けている。また、不安など訴えられる時は納得のいくまで聞くなど、日頃からコミュニケーションを図ることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の作業中でも外出願望があった時は希望を優先している。出来る限り入居者の希望通りに行動出来るよう、職員間でやりくりをし、工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛のブラッシングや衣類の修繕などは常に心掛けている。出来たら時々は口紅などをつけてみるのも良いと思う。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどは一緒に出来ている。今後は手作りメニューを増やし、さらに食事作りが楽しくなるよう支援したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々に、一日の水分量の目標を掲げ、声かけをしたり、こまめに水分を出すなどして目標の水分量が採れるように心掛けている。メニューも偏らないように工夫し、好き嫌いにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外して歯磨き、うがいをして頂いている。夕食後はポリドントに浸けて清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツを使用している方も、昼間はなるべく布のパンツに履き替えてもらうよう努めている。昼夜共に入居者個々のタイミングで声かけを行ない、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、牛乳やオリゴ糖入りのジュースを出したり、ご飯を炊く時に粉寒天を入れて炊いている。レクでボール投げをしたり、階段や廊下で歩行練習をするなど運動を促している。看護師や医師に相談し、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	三日に一度は入浴してもらっている。入浴予定日でなくても希望があれば入浴してもらっており、拒否のある時は無理強いせずに日をずらしたり、職員を代えて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は居室やフロアーを暗くし、エアコンの温度、湿度調整や管理などに気をつけている。こまめに訪室し、本人や居室の状況を確認している。昼間の活動量が多く疲労が見られる場合は、フロアーのソファや居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、毎食前後に飲んでもらっている。薬の追加や変更があった場合は職員全員が内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事作り、掃除、洗濯は入居者と一緒に行っている。外食やドライブ、季節のイベントなどの機会を作り、気分転換を図っている。買物時には栄養面や美味しさ、好みを尊重し、食材やお菓子を選んでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮した上で希望する方はその都度散歩へ行っている。日光浴やドライブ、地域のイベントなどなるべく戸外に出られるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には、所持してもらっている。それ以外の人は職員が預かり管理し、必要時に使用している。家族には用途の相談や報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月に年賀状を出している。家族に電話をしたいなど希望がある時は支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や、湿度等に注意し、快適に過ごしてもらえるよう支援している。また、入居者と一緒に掃除を行ない、共用空間の清潔な環境作りをしている。玄関やフロアには、季節の花を飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での座席は一応決めてはあるが、その時々で好きな場所、ソファにも座ってもらっている。レクなど楽しく過ごせるよう工夫している。気分転換や季節を感じてもらえるよう散歩やドライブに誘っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にミニテーブルセットを持ち込み用意したり、家族と談笑できるように支援している。懐かしいアルバムや今まで使っていた棚や家具などを置き、安心、ほっとできる居室にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない方にも説明し易いよう、トイレのドアに造花のブーケを飾っている。リネン庫入口にほうきやちりとりを置き、いつでも掃除できるようにしている。食事用の箸は職員が並べず、箸立ての中から自分で取ってもらえるよう声かけをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

どんぐり庵

作成日

平成24年11月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	まだ理解できていない職員もいるので3カ月に一度は確認の場を設けていく。	職員全員が理念について理解することができる。	3カ月に一度くらい理念についての話し合いを行う。	3カ月 (その後も継続)
2	35	避難訓練は行っているが全員参加はできていない。(夜勤専門者など) 全員参加の訓練が必要である。	全員参加の避難訓練を行うことができる。	防災担当が中心になり避難訓練の方法や日程を検討していく。	6か月
3	35	震災時の動きを職員が把握しておらず、訓練には職員全員は参加していない。	震災時の動きを職員が把握し、訓練に全職員が参加する。	現在、防災担当が中心になり、マニュアルを作成している。出来次第、シミュレーションを行なう予定。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。